

## 第36回 教文研教育シンポジウム

# あなたの学校は今、元気ですか？

— 教育実態総合調査 2023 の結果を検証する —

〈日 時〉 2026年1月17日(土)14時～16時30分

〈場 所〉 神奈川県教育会館 4Fホール



### 1 開 会

### 2 神奈川県教育文化研究所あいさつ

### 3 報 告

調査の概要

青木 純一さん（前カリキュラム総合改革委員 結核研究所）

第5回教育実態総合調査の報告

堀内 正志さん（前カリキュラム総合改革委員）

### 4 パネルディスカッション

コーディネーター 青木 純一さん（同上）

パネリスト 岩澤 烈 さん（川崎市立学校） / 稲葉 達也さん（横浜市立学校）

吉川 早 さん（川崎市立学校） / 久保寺晴美さん（平塚市立学校）

（休 憩）

### 5 質疑・意見交換

### 6 閉 会



《主催》神奈川県教育文化研究所

《共催》（一財）神奈川県教育会館

《後援》（一財）神奈川県高等学校教育会館教育研究所



## 調査の概要

(報告) 青木純一

1

## 1 調査目的

(1) 神奈川県における教職員の仕事や暮らしの様子を明らかにし、さらに、過去の教文研調査や他機関の類似調査と比較することで、その特徴や課題を明らかにする。

(2) 上記の取り組みを通して、教文研活動や組合活動に資する情報を提供する。

2

## 2 調査内容

(対象)

神奈川県内の公立小・中学校、市立高校、市立特別支援学校の教職員

(内容)

総数 50設問

- 内訳
- ・基本属性に関する設問 (19)
  - ・仕事や職場の様子に関する設問 (7)
  - ・仕事のやりがいや人間関係に関する設問 (11)
  - ・生活や健康に関する設問 (13)

3

## 3 方法と結果

(方法)

Microsoft formsによるWEB調査

(回答総数)

3,976人

(留意点)

本調査は、母集団である神奈川県全体の学校種や市町村の教職員数、また男女や年齢比を加味して調査対象者を抽出した調査ではない。

4

## 4 調査手順

〈スケジュール〉

- (1) 調査目的と調査項目の検討 (2023.4~10)
- (2) かながわ教職員組合連合に対し調査依頼 (2023.11)
- (3) 各地区教組への説明 (2023.11~12)
- (4) 調査の実施 (期間：2023年12月11日~12月25日)
- (5) 速報値を地区教組に報告 (2024.1)
- (6) 調査結果の整理 (2024.1~3)

5

ご協力に対し、心よりお礼を申し上げます。

教文研カリキュラム総合改革委員会  
〈教育制度〉研究グループ

7

## 4 調査手順

- (7) 調査結果の分析 (2024.4~12)
- (8) 報告書作成にむけた原稿執筆 (2025.1~3)
- (9) 「教育実態総合調査 2023」を完成 (2025.6)  
教文研HPに掲載 (2025.7)

6

8

# 第5回教育実態総合調査の報告

堀内正志 前 カリキュラム総合改革委員会委員

神奈川県教育文化研究所「教育シンポジウム」  
2026年1月17日

## 本日の報告の内容

神奈川県教育文化研究所 「所報 2025」(2025) 所収の拙稿  
「『第5回教育実態総合調査』の報告一木を見る前に森を見る」

1. 調査の概要
2. 経年の変化をみる
3. 民間労働者と比較する
4. 市民と比較する
5. ジェンダーからみる
  - (1) 本調査からみる
  - (2) 比較した調査(民間労働者・市民)からみる
6. 教員の処遇改善策との整合は？

※データ処理の関係から、報告書とは数値に若干の齟齬があります。



1

2

詳細な報告書は…

「教育実態総合調査 2023」(2025年7月)

神奈川県教育文化研究所 HP  
<https://kanagawa-kyobunken.com/>

所報 調査報告書 とともに上記HPにアップされています。



3

## 1. 調査の概要 目的・内容

教育実態総合調査の目的

教職員の仕事・暮らし及びその時々々の教育課題について意識を把握する。

調査の主管 カリキュラム総合改革委員会「教育政策・制度」研究グループ

調査期間 2023年12月11日～12月25日

調査方法 Microsoft formsによるWeb調査

調査対象 神奈川県内 公立小学校・中学校 市立高等学校 市立特別支援学校  
のフルタイム教職員

回答数 3,976人

4

## 今回の調査のコンセプトと調査内容

調査のコンセプト 「タテとヨコでみる」

タテ 経年の変化をみる

ヨコ 民間労働者や市民と比較する

調査の内容 51項目

基本属性 19項目

主要設問 31項目

「仕事や職場の様子」 7項目

「仕事のやりがいや人間関係」 11項目

「生活や健康」 13項目

5

## 主要設問の回答形式と分析

多くは5件法

当てはまる

どちらかという当てはまる

どちらかという当てはまらない

当てはまらない

わからない

肯定的回答と否定的回答で分析

全体像の把握と傾向の明確化

6

### 1. 調査の概要 比較した調査（31設問の内訳）

タテ 第3回（2005年）調査 7設問

第4回（2012年）調査 8設問

ヨコ 連合総合生活開発研究所（連合総研）「勤労者短観」  
（勤労者の仕事と暮らしについてのアンケート） 9設問

内閣府「国民生活世論調査」 6設問

厚生労働省「国民生活基礎調査」 4設問

NHK放送文化研究所「『日本人の意識』調査」 2設問

（3設問が同内容で重複）

7

### 2. 経年の変化をみる 7ポイント以上増減がある5設問

〈27 協力して学校の業務を進めていこうとする雰囲気がある。〉

肯定的回答78.9%であるが、第4回調査86.0% 本調査7.1ポイント低下

〈32 定年前に仕事を辞めたいと思ったことがある。〉

肯定的回答は70.7% 第4回調査61.5% 本調査は9.2ポイント上昇  
第3回調査（2005年）〈定年前に学校を辞めたいと思う。〉54.3%肯定的回答  
これと比べると本調査は16.4ポイント上昇

〈33 定年後もいまの仕事を続けたいと思っている。〉

肯定的回答25.8% 第4回調査35.1% 本調査9.3ポイント低下

〈34 保護者との関係について困ったり悩んだりしていることはある。〉

肯定的回答64.4% 第3回72.8%である。本調査8.4ポイント減少

〈38 健康について悩みや不安はある。〉

肯定的回答67.8%である。第4回調査59.0%で、本調査8.9ポイント上昇

8

## これらについての私見

〈32 定年前退職〉 〈33 定年後継続〉 〈38 健康不安〉  
仕事を続けていくことや健康への不安は以前より増している。

〈27 学校の協力的雰囲気〉の肯定的回答の減少  
2006年度から総括（主幹）教諭制度が導入され学校組織が階層化した。

〈34 保護者との関係〉の「困り感」の減少  
第3回調査（2005年）以降、様々な支援スタッフが配置され、役割分担が明確化されてきた。  
「チーム学校」として課題を教員が1人で抱え込まない学校体制へと移行してきた。

9

## 3. 民間労働者と比較する 本調査が40ポイント以上高い3設問

「勤労者短観」の「首都圏・関西圏」の総数と比較

〈20 今の仕事は自分の能力・専門性を十分に活かしている。〉  
肯定的回答88.7% 「勤労者短観」43.1% 本調査は45.6ポイント高い。

〈21 今の仕事は一定の責任・裁量を与えられている。〉  
肯定的回答94.4% 「勤労者短観」47.7% 本調査は47.7ポイント高い。

〈31 いまの仕事にやりがいを感じている。〉  
肯定的回答86.0% 「勤労者短観」44.9% 本調査は41.1ポイント高い。

10

## 3. 民間労働者と比較する 本調査が10ポイント以上低い3設問

〈24 今の仕事は肉体的疲労は感じない。〉  
肯定的回答19.1% 「勤労者短観」39.4% 本調査は20.3ポイント低い。

〈25 今の仕事は精神的に過度なストレスがない。〉  
肯定的回答は20.5% 「勤労者短観」33.8% 本調査は13.3ポイント低い。

〈26 今の仕事は仕事と生活のバランスが適度にとれている。〉  
肯定的回答は32.4% 「勤労者短観」50.1% 本調査17.7ポイント低い。

11

## これらについての私見

〈20 能力・専門性〉 45.6ポイント高

〈21 責任・裁量〉 47.7ポイント高

〈31 仕事のやりがい〉 41.1ポイント高

〈24 肉体的疲労〉 20.3ポイント低

〈25 精神的ストレス〉 13.3ポイント低

〈26 仕事と生活のバランス〉 17.7ポイント低

民間労働者と比較して教職員は仕事に対する肯定感が高い反面、仕事による心身の疲労は大きい。

※「勤労者短観」の回答者に留意

12

### 3. 市民と比較する 本調査と20ポイント以上開いたの4設問

〈43 あなたは現在、日常生活で悩みやストレスがありますか。〉  
肯定的回答77.8% 「厚労省調査」50.4% 本調査が27.4ポイント高い。

〈46 あなたは、日頃の生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがありますか。それとも、仕事や家事、育児、介護などに精一杯で時間のゆとりがありませんか。〉  
「ゆとりがない」61.3% 「内閣府調査」35.2% 本調査は26.1ポイント%高い。

〈48 あなたは、今後の生活において、貯蓄や投資など将来に備えることに力を入れたいと思いますか。それとも毎日の生活を充実させて楽しむことに力を入れたいと思いますか。〉  
「将来に備える」74.7% 「内閣府調査」46.2% 本調査より28.5ポイント低い。

〈49 あなたは、収入と自由時間について、自由時間をもっと増やしたいと思いますか。それとも、収入をもっと増やしたいと思いますか。〉  
「自由時間」70.9%である。「内閣府調査」41.9%で、本調査より29.0ポイント低い。

### これらについての私見

教職員は、世間一般の人と比べると「日常生活に悩みやストレスを抱え時間のゆとりがない中で将来に備えた生活を指向しているが、今は収入よりも自由時間がほしい」

〈48 将来の備えと毎日の生活〉 「将来に備えた生活」74.7% 「毎日の生活の充実」25.3%

「収入よりも自由時間（余暇）」指向

13

14

「収入よりも自由時間（余暇）」指向を、関連する調査項目でみる 〈41 生活の力点〉

〈41 あなたは、今後の生活において、特にどのような側面に力を入れたいと思いますか。(複数回答可)〉

	本調査		内閣府調査	
	n=	3,975	n=	1,888
1	レジャー・余暇生活	62.5 %	健康	71.7 %
2	健康	54.1	資産・貯蓄	38.7
3	食生活	46.5	食生活	38.6
4	資産・貯蓄	40.6	所得・収入	33.1
5	所得・収入	32.5	レジャー・余暇生活	30.8
6	住生活	31.4	住生活	24.4
7	自己啓発・能力向上	30.6	自己啓発・能力向上	17.2
8	自動車等耐久消費財	25.7	自動車等耐久消費財	11.2
9	衣生活	16.1	衣生活	8.0
10	その他	1.5	その他	2.3
	無回答	0.0	無回答	1.7

第3順位までみると

本調査  
「レジャー・余暇生活」62.5%  
「健康」54.1%  
「食生活」46.5%

内閣府調査  
「健康」71.7%  
「資産・貯蓄」38.7%  
「食生活」38.6%

「レジャー・余暇生活」30.8%第5位

15

「収入よりも自由時間（余暇）」指向を、関連する調査項目でみる 〈47 余暇の過ごし方〉

〈47 余暇について、現在あなたはどんなことをして、自分の自由になる時間を過ごしていることが多いですか。次の中から、一番多いものと2番目に多いものをお答えください。〉

1番目+2番目の結果	本調査	NHK研究所調査
	n= 3,975	n= 2,751
1	好きなことを楽しむ 67.4 %	好きなことを楽しむ 68.6 %
2	体をやすめて、あずに備える 60.8	友人や家族との結びつきを深める 44.0
3	友人や家族との結びつきを深める 42.5	体をやすめて、あずに備える 43.3
4	運動をして、体をきたえる 14.8	運動をして、体をきたえる 18.7
5	知識を身につけたり、心を豊かにする 10.3	知識を身につけたり、心を豊かにする 18.0
6	その他 3.0	世の中のためになる活動をする 4.5
7	世の中のためになる活動をする 1.2	その他 0.4
	無回答 0.0	無回答 1.9

第3順位まで同じ項目

NHK研究所調査は第2位と第3位は0.7ポイント差でほぼ同順位

本調査では18.3ポイント差で「体を休めて～」が第2位

16

教職員に必要なのは、疲労回復と自由な時間（余暇）

〈46 あなたは過去1か月、睡眠によって休養が充分にとれていますか。〉

	本調査	厚労省調査
n=	3975	55,630
充分とれている	8.2 %	17.8 %
まあまあとれている	50.0	57.2
あまりとれていない	36.7	23.0
まったくとれていない	5.2	2.0

〈24 今の仕事は肉体的疲労は感じない。〉

肯定的回答19.1%「勤労者短観」39.4% 本調査は20.3ポイント低い。

〈45 あなたは過去1か月、睡眠によって休養が充分にとれていますか。〉

「とれていない」

本調査41.9% 厚労省調査25.0%

本調査では、16.9ポイント高い

## 5. ジェンダーから見る (1) 本調査から見る

回答に男女の開きが8ポイント以上となった7設問

〈22 今の仕事は家計をまかなえる賃金・処遇条件である。〉

肯定的回答は男性72.3% 女性81.1% 女性が8.8ポイント高い。

「勤労者短観」男性49.2%、女性46.3% 男性が2.9ポイント高い。

民間労働者の場合、男女の差はあまりない。教職員の場合、女性の方が「家計をまかなえる賃金・処遇条件である」と感じている。

〈23 今の仕事は賃金・処遇が適切で納得性がある。〉

肯定的回答は男性38.6% 女性47.5% 女性が8.9ポイント高い。

「勤労者短観」男性37.8%、女性38.5% 0.7ポイント女性が高い。男女の差はあまりない。

教職員は、民間労働者よりも男女の差は明確で、女性の方が賃金の「適切・納得性」を感じている

〈24 今の仕事は肉体的疲労は感じない。〉

否定的回答は男性75.0% 女性83.9% 女性が8.9ポイント高い。

「勤労者短観」男性54.8% 女性47.6% 男性が7.2ポイント高い。

教職員は女性の方が疲労を感じているが、民間労働者は男性の方が疲労を感じている。

〈32 定年前に仕事を辞めたいと思ったことがある。〉

男性64.1% 女性75.2% 女性が11.1ポイント高い。

女性は男性より多く「辞めたいと思ったことがある。

第4回調査(2012年) 男性51.4% 女性69.1% 17.7ポイント女性が高い。

〈33 定年後もいまの仕事を続けたいと思っている。〉

男性32.7% 女性21.1% 男性が11.6ポイント高い。

男性の方が女性より「仕事を続けたいと思っている。」。

第4回調査(2012年) 男性45.7%、女性27.5% 18.2ポイント女性が高い。

「仕事の継続」については、男女の開きは12年前よりも縮まっている。

〈42 あなたの現在の健康状態はいかがですか。〉

「よい」男性57.2% 女性48.4%で 男性が8.8ポイント高い。

男性は女性よりも健康状態は良好と感じている。

「厚労省調査」男性42.9% 女性41.5% 男性が1.4ポイント高い。男女の差はあまりない。

〈49 あなたは、収入と自由時間について、自由時間をもっと増やしたいと思いませんか。それとも、収入をもっと増やしたいと思いませんか。〉

「自由時間」男性65.8% 女性74.4% 女性が8.6ポイント高い。

女性の方が収入よりも自由時間を増やしたいと思っている。

「内閣府調査」男性42.8% 女性41.2% 男性が1.6ポイント高い。

男女の差はあまり見られない。

〈47 余暇について、現在あなたはどんなことをして、自分の自由になる時間を通していることが多いですか。次の中から、一番多いものと2番目に多いものをお答えください。〉

1番目+2番目の結果		n=	好きなことを楽しむ %	体をやすめて、あすに備える %	運動をして、体をきたえる %	知識を身につけたり、心を豊かにする %	友人や家族との結びつきを深める %	世の中のために活動をする %	その他 %	無回答 %
総数		3,975	67.4	60.8	14.8	10.3	42.5	1.2	3.0	
本調査	男性	1,614	69.1	52.2	24.1	12.9	37.5	1.7	2.4	
	女性	2,339	66.2	66.8	8.4	8.4	46.1	0.7	3.4	
総数		2,751	68.6	43.3	18.7	18.0	44.0	4.5	0.4	1.9
NHK研究所調査	男性	1,244	71.4	42.5	21.6	18.8	37.0	5.8	0.2	0.7
	女性	1,507	66.0	44.0	16.3	17.3	49.8	3.5	0.5	2.0

女性 「体を休め～」66.8% 「好きなこと～」66.2%

## これらについての私見

女性が定年前に辞めたいと思ったり、定年後も仕事を続けたいと思わないのは、賃金・処遇に不満があるからではなく、男性よりも疲労や健康不安を感じたり、余暇・自由時間を欲しているからかもしれない。

## 5. ジェンダーから見ると

(1) 比較した調査（民間労働者・市民）からみる

男女で9ポイント以上の開きがあった3設問

〈24 今の仕事は肉体的疲労は感じない。〉

「勤労者短観」男性38.1% 女性47.6% 女性が9.5ポイント高い。

本調査 男性24.4% 女性15.5% 男性が8.9ポイント高い。

民間労働者は女性の方が疲労を感じていないが、教職員は男性の方が疲労を感じていない。

〈26 今の仕事は仕事と生活のバランスが適度にとれている。〉

「勤労者短観」男性44.2% 女性54.5% 女性が10.3ポイント高い。

本調査 男性36.2% 女性30.2% 男性が6.2ポイント高い。

民間労働者は、女性の方が「バランスがとれている」と感じ、教職員は男性の方が「バランスがとれている」と感じている。

〈43 あなたは現在、日常生活で悩みやストレスがありますか。〉

「厚労省調査」男性45.2% 女性56.6% 女性が11.4ポイント高い。

本調査 男性74.8% 女性79.8% 女性が5.0ポイント高い。

市民、教職員ともに女性の方が「悩み・ストレス」を感じているが、男女の差は教職員の方が少ない。

## これらについての私見

3つの設問に関する男女の差は、民間労働者・市民の場合9.5～11.4ポイントであるのに対して、教職員の場合5.0～8.9ポイントである。教職員は、民間労働者・市民と比較して男女の差の少ない仕事と暮らしぶりであることが窺える。

## 6. 教員の処遇改善策との整合は？

〈49 あなたは、収入と自由時間について、自由時間をもっと増やしたいと思えますか。それとも、収入をもっと増やしたいと思えますか。〉

「自由時間」70.9% 教職員は、収入よりも自由時間を望んでいる

〈22 今の仕事は家計をまかなえる賃金・処遇条件である。〉

肯定的回答77.5% 「勤労者短観」41.3%

教職員の回答ははるかに高い。

〈23 今の仕事は賃金・処遇が適切で納得性がある。〉

否定的回答54.2% 「勤労者短観」55.0%

家計をまかなえる賃金であるとの実感はかなり高いが、その適切さや納得性には疑問を残している。

25

〈46 あなたは、日頃の生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがありますか。それとも、仕事や家事、育児、介護などに精一杯で時間のゆとりがありませんか。〉

「ゆとりがない」61.3% 教職員の過半数はゆとりの時間が無いと回答している。

〈44 あなたの過去1か月の1日の平均睡眠時間はどのくらいでしたか。〉

厚生労働省「健康づくりのための睡眠ガイド2023」は6時間以上を適切な睡眠時間としている。

「6時間以上」総数49.3% 男性50.5% 女性48.4%

「厚労省調査」総数59.1% 男性60.2% 女性58.2%

本調査は男女とも約10ポイント低い。

〈45 あなたは過去1か月、睡眠によって休養が充分にとれていますか。〉

「とれていない」本調査41.9% 厚労省調査25.0%

本調査では、16.9ポイント高い

26

## これらについての私見

多くの教職員の実感は

「家計をまかなえる賃金を得ているが、その納得性には疑問を感じている。またゆとりの時間は乏しく睡眠時間は不足し十分な休養をとれていない生活をしている」

ことになる。これに答える処遇改善策が望まれる。

わたくしからの報告は、以上です。

27

28

# パネルディスカッション

## 総合テーマ

「あなたの学校は今、元気ですか？」

－教育実態総合調査2023の結果を検証する－

- パネラー 岩澤さん（川崎市）  
稲葉さん（横浜市）  
吉川さん（川崎市）  
久保寺さん（平塚市）  
司会 青木さん（結核研究所）

1

# パネルディスカッション

## (前半)

パネラーによるディスカッション（14：45～15：45）

テーマ1 「いま必要な職場環境とは」（岩澤さん）

テーマ2 「教職のやりがいを考える」（稲葉さん）

テーマ3 「望まれる生活時間や健康の質」（吉川さん）

## (後半)

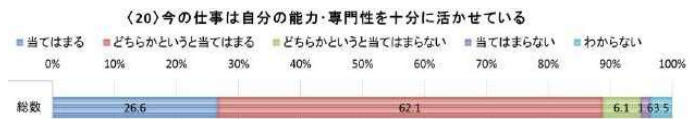
参加者との意見交換（16：00～16：25）

2

## テーマ1

「いま必要な職場環境とは」

能力・専門性を活かしている：思う(88%)、思わない(7%)



一定の責任・裁量が与えられている：思う(93%)、思わない(4%)



3

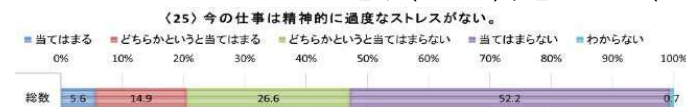
## テーマ1

「いま必要な職場環境とは」

家計をまかなえる賃金・処遇条件：思う(77%)、思わない(21%)



今の仕事は精神的に過度なストレスがない：  
思う(20%)、思わない(78%)



4

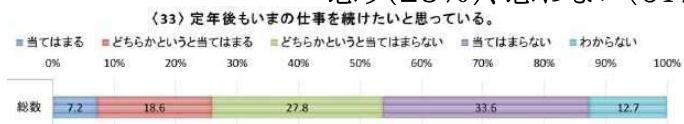
## テーマ1

### 「いま必要な職場環境とは」

仕事と生活のバランスが適度にとれている：  
思う(32%)、思わない(66%)



定年後もいまの仕事を続けたい：  
思う(25%)、思わない(61%)

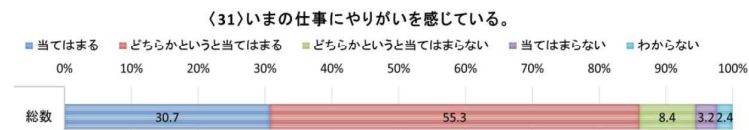


5

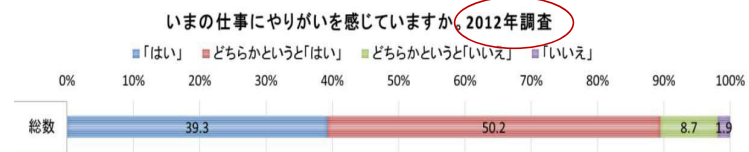
## テーマ2

### 「教職のやりがいを考える」

仕事にやりがいを感じている：思う(85%)、思わない(11%)



仕事にやりがいを感じている：思う(89%)、思わない(10%)



6

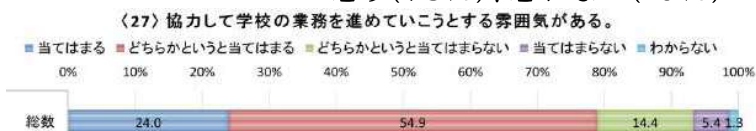
## テーマ2

### 「教職のやりがいを考える」

仕事に働きがいを感じている：思う(43%)、思わない(50%)



協力して学校の業務を進めていこうとする雰囲気がある：  
思う(78%)、思わない(19%)

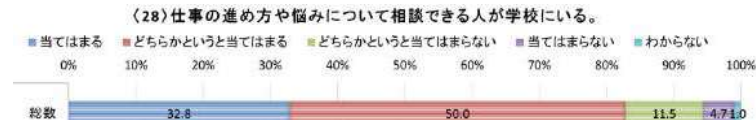


7

## テーマ2

### 「教職のやりがいを考える」

仕事や悩みを相談できる人がいる：思う(82%)、思わない(16%)



孤立していると思うことがある：思う(18%)、思わない(78%)



8

### テーマ3

## 「望まれる生活時間や健康の質」

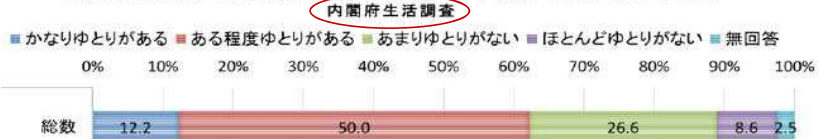
生活時間にゆとりがありますか：ある(38%)、ない(61%)

〈46〉あなたは、日頃の生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがありますか。それとも、仕事や家事、育児、介護などに精一杯で時間のゆとりがありませんか。



生活時間にゆとりがありますか：ある(62%)、ない(35%)

あなたは、日頃の生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがありますか。それとも、仕事や家事、育児、介護などに精一杯で時間のゆとりがありませんか。



### テーマ3

## 「望まれる生活時間や健康の質」

教文研調査：好きなことをする(33%)、体をやすめる(30%)、友人や家族と(21%)

〈47〉暇について、現在あなたはどんなことをして、自分の自由になる時間を過ごしていることが多いですか。次の中から、一番多いものと2番目に多いものとお答えください。



(参考)NHK調査：好きなことをする(34%)、体をやすめる(21%)、友人や家族と(22%)

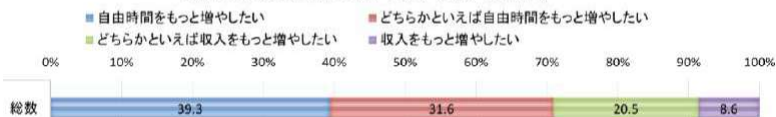
### テーマ3

## 「望まれる生活時間や健康の質」

収入と自由時間、どっちを増やしたいか：

自由時間(70%)、収入(29%)

〈49〉あなたは、収入と自由時間について、自由時間をもっと増やしたいと思いますか。それとも、収入をもっと増やしたいと思いますか。



### テーマ3

## 「望まれる生活時間や健康の質」

健康の悩みや不安はある：

当てはまる(67%)、当てはまらない(21%)

〈38〉健康についての悩みや不安はある。



健康の悩みや不安はある：

当てはまる(59%)、当てはまらない(41%)

健康についての悩みや不安はありますか。2012年調査



### テーマ3

## 「望まれる生活時間や健康の質」

日常生活の悩みやストレス：あり(77%)、なし(22%)



日常生活の悩みやストレス：あり(50%)、なし(49%)



(後半)

参加者との意見交換 (16:00~16:25)

配布した用紙にご意見、ご感想をご記入の上、  
担当者までご提出ください。

ご協力、ありがとうございました。